



「地域連携特例校」について

校長 後藤 慎和

みなさまにおかれましては、日頃より本校の教育活動に多大なるご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、報道等で既にご存じかとは思いますが、9月6日、道教委より本校を R5 年度から「地域連携特例校」に指定する旨の発表がありました。

天塩高校の将来に関わる重要な事柄のため、内容について次のとおりご説明させていただきます。

●地域連携特例校とは



上のグラフは、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング「2019 政策研究レポート」で報告された道内市町村の高校存続の有無における人口減少率の推移を示したものです。地元で高校が存在するか、しないかによって人口減少率が異なるというものです。

北海道では、地域の教育機能の維持向上の観点や高校が地域で果たしている役割等を踏まえ、第1学年1学級の高校のうち、地理的状况等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校を「地域連携特例校」に位置付け、地域連携協力校等との連携した教育活動などにより、教育環境の充実を図っていきます。

R4 年度は全道で 27 校が地域連携特例校に指定されており、管内では苫前商業高校、近隣では豊富高校が既に指定を受けています。本校の協力校には、留萌高校が指定され、今後「授業に関する連携」や「授業以外の連携」について検討していきます。

<イメージ図>



●T-base（ティーベース）について

小規模の高校では、教職員の人数が少なくなるため、大学進学から就職までの多様な進路希望に対応した教科・科目の開設が困難となります。そのため、

大学進学等を目指す中学生が住み慣れた地域を離れ、都市部の高校へ進学するという実態となっています。

これまでは協力校の教員が特例校に派遣されて授業を行ってきましたが、移動距離や荒天による交通事情等の問題により、充分とはいえませんでした。

そのため、道教委では

(1)子どもたちが、どの地域においても自らの可能性を最大限伸ばしていくことができる、多様で質の高い教育を提供する。

(2)小規模校が魅力化に取り組むことで、子どもたちが地元で育ち、地域に愛着と誇りをもってふるさとの発展に貢献していく意欲を育む。

ことを目的として、遠隔授業の配信機能を集中化した北海道高等学校遠隔授業配信センター（愛称：T-base（ティーベース））を開設しました。

拠点校として北海道有朋高等学校を指定し、令和3年4月から T-base による先進的な遠隔授業の取組を展開しています。

遠隔授業は、本校のみに単独で行われる場合もありますが、複数の高校と合同で行われる場合もあります。他校生との交流をはじめ、互いに切磋琢磨して学ぶことができることも魅力の一つです。

また、遠隔授業は、R3 年から年次進行で行われていて、R5 年は全学年が対象となります。そのため、本校では新2・3年生の授業においても T-base の活用を計画しています。

T-base では遠隔授業のほか、センターの教員が本校で直接授業を行う対面授業、学習評価、夏季・冬季進学講習、最新情報による進路指導の支援なども行う予定です。この先進的な取組は、文科省をはじめ、他県の教育委員会等が視察に訪れるなど、全国的にも注目されています。

9月12日（月）に実施された「2022 高校見学会」では、実際に中学3年生に遠隔授業を体験してもらいました。生徒からは「映像と音声のタイムラグもなく、ストレスにならない」、「普段の授業とあまり変わらない」等の評価をいただいています。

子どもたちが、地元で学びながら、大学進学等の進路実現を図ることができるよう、今後とも教職員一丸となって取り組んでいく所存です。みなさまのご理解と変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

最後に、「地域連携特例校」は1学年1学級の学校が対象となります。このことから、本校の R5 年度入試（現在の中3）からの募集定員は 80 名⇒40 名へ変更となりますので、併せてご承知おきください。

【裏面に続く】

令和4年度(2022)高校見学会

9月12日(月)に中学3年生対象の「高校見学会」を実施しました。町内外合わせて60名の生徒に参加いただきました。平日実施にもかかわらず、ご協力いただいた各中学校および保護者のみなさまに改めてお礼申し上げます。

当日は、学校概要説明と遠隔授業体験、在校生との懇談、部活動見学という内容で実施しました。約2時間半という短い時間ではありましたが、多くの中学生から本校への理解が深まったという旨のアンケート回答をいただきました。

中学3年生のみなさんは修学旅行も終わり、いよいよ受験勉強にシフトチェンジする時期となりました。みなさんへ、次のメッセージを送ります。

(1) 授業を大切にしよう！

⇒授業を100%理解することが受験勉強の第一歩。

(2) 受験勉強に秘策なし！

⇒日々の継続した努力の積み重ねが最も大切。

(3) 受験は“団体戦”！

⇒受験勉強は孤独なもの。だからこそ、クラスみんなで支え合い、高め合い、励まし合おう！

<遠隔授業の様子>



<在校生との懇談>



筑波大学との高大連携事業

本校では、1・2年生の総合的な探究の時間において、「地域創生(まちづくり)」に向けた探究活動を実施しています。3~5名でグループをつくり、グループ毎にテーマを設定し、研究した内容について提言発表します。

1年生は、天塩町の歴史や自然、地域課題等について理解を深めるため、講義型および体験型の学びを行います。後半からは各自の研究テーマを決めるための準備を行い、2年生になってから本格的に研究を始めます。筑波大学の学生にTA『Teaching Assistant(ティーチング・アシスタント)』として加わってい

ただき、データ収集や資料の活用法、また、科学的根拠に基づいた論理的な発表となるよう指導・助言をいただいています。

今年度は8月27日(土)に天塩町社会福祉会館で6グループが佐々木町長をはじめとする来賓の方々の前で研究成果を発表しました。

<R4「研究発表」のテーマ>

- 1 野鳥観測の魅力発信について
- 2 ニシンを使った商品開発について
- 3 町のイベント企画について
- 4 SNSの活用、多言語化に対応した取組について
- 5 アロマづくりを通じたまちづくりについて
- 6 ふるさと納税の返礼品について



また、8月25日(木)には昨年の2年生(現3年生)が発表した観光客向けの「サイクリングによる夕陽体験ツアー」の実証・実験が行われました。

本校生徒がガイドとなり、筑波大学の先生や学生さん達を案内しました。この様子は、NHKでも取り上げられました。



★10月の主な予定★

17日(月)~21日(金) 見学旅行「兵庫・大阪・京都」

※今年度、天塩町地域おこし協力隊の方々と連携し、神戸市内で天塩町のPR活動を行う予定です。

